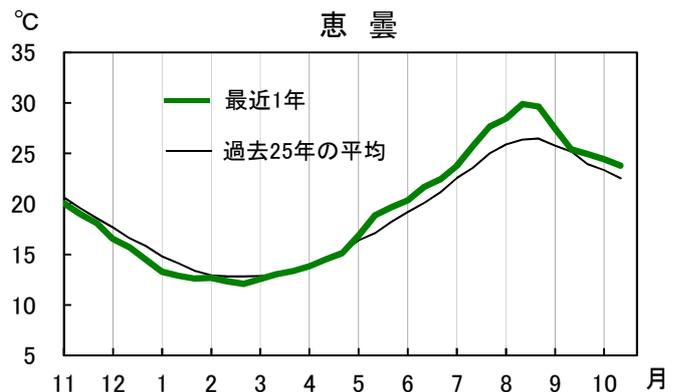
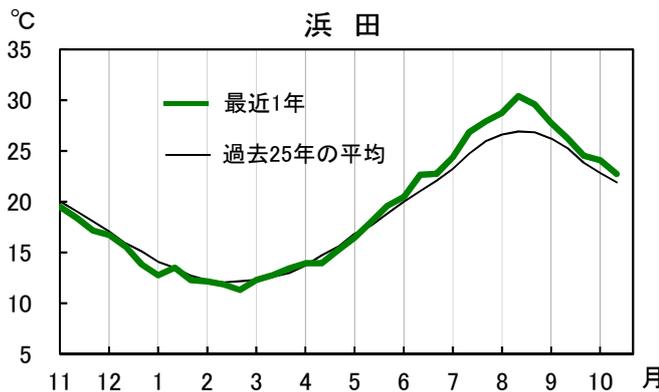




《9～10月の海況》

| 9月 | 月平均 | 平年差 | 評価 |
|----|-------|-------|------|
| 浜田 | 26.1℃ | +0.9℃ | やや高め |
| 恵曇 | 26.0℃ | +1.1℃ | やや高め |

沿岸定地水温は、9月は浜田・恵曇地区とも「平年並み～やや高め」で概ね高めで推移しました。10月に入り、中旬までで両地区とも「やや高め～かなり高め」で経過しており、高水温の傾向が続いています。



《9月の漁況》

【中型まき網漁業】

県西部（浜田地区）ではサバ類、マアジ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は平年を下回りました。主体であるサバ類、マアジはそれぞれ平年の4割、5割と大きく下回りました。県東部（西郷地区及び浦郷地区）ではマアジ主体の漁況で、1統1航海当りの漁獲量は西郷で平年を上回りました。主体であるマアジは、過去5年間で最大の水揚げとなり、それぞれ平年の5倍、8倍となりました。

【イカ釣漁業】

浜田地区（属地5トン以上）ではケンサキイカ（全体の90%）を主体にスルメイカ（全体の10%）が混じる漁況で、1隻1航海当りの漁獲量は383kgで平年を下回りました。西郷地区（属地5トン以上）ではケンサキイカ（全体の96%）が主体で、ソデイカ（全体の4%）も漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は132kgで平年並みでした。

【沖合底びき網漁業】

浜田港ではムシガレイ、ケンサキイカ、キダイ主体の漁獲でした。1統1航海当たり漁獲量は11.4トンで、平年（過去10年平均）並みの水揚げとなりました。全体的に低調に推移し、ムシガレイは平年の8割、ケンサキイカは平年の9割の水揚げに留まりました。一方、アカムツは小型サイズを中心に好調に推移し、平年の2倍、キダイも平年の1.8倍の水揚げとなりました。

【小型底びき網漁業】

和江地区ではキダイ主体、久手地区ではニギス、アンコウ主体の漁況でした。1隻1航海当たりの漁獲量は、両地区とも平年を下回り、8～9割の水揚げに留まりました。ソウハチは両地区とも好調であり、平年の1.4～2.2倍の水揚げがありました。一方、ケンサキイカは低調で、両地区とも平年の2割の水揚げに留まりました。

【定置網漁業】

石見地区ではサワラ類主体の漁況で、1統当りではサワラ類が4倍、また、その他の魚種も好調だったため、全統の総漁獲量は平年を上回りました。出雲地区ではサワラ類主体の漁況で、1統当りでは石見地区と同様サワラ類が4倍、その他の魚種も好調であったことから全統の総漁獲量は平年を上回りました。隠岐地区ではカンパチ、マアジ、ブリ主体の漁況で、1統当りではカンパチ、マアジがそれぞれ平年の8倍、2倍と好調だったものの、その他の魚種が低調であったため、全統の総漁獲量は平年並みとなりました。

【釣・縄】

石見地区ではケンサキイカ、ヒラマサが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は20kgで平年を下回りました。出雲地区ではケンサキイカ、サワラ類、マダイが主に漁獲され、1隻1航海当りの漁獲量は26kgで平年並みでした。隠岐地区ではケンサキイカ、マダイ、クロマグロ（ヨコワ）が主に漁獲され、1隻1航海当りの総漁獲量は39kgで平年を上回りました。隠岐地区では9月下旬から養殖種苗用としてのヨコワ曳縄釣が始まり、滑り出しは順調のようです。また、各地区で漁獲の主体となっているケンサキイカは、出雲・石見地区では平年を下回り、隠岐地区では平年を上回る漁模様でした。

【平成 25 年 9 月の漁獲統計】

| 漁業種類 | 水揚港 | 主要魚種 | 総漁獲量 | | | CPUE(1隻(統)1航海当り漁獲量) | | | 漁模様 |
|-----------------|-----|--------------------------|---------|-------|-------|---------------------|-------|-------|-----|
| | | | 漁獲量 | 前年比 % | 平年比 % | 漁獲量 | 前年比 % | 平年比 % | |
| 中型まき網 | 浜田 | サバ類、マアジ | 94トン | 40% | 37% | 6.3トン | 58% | 69% | ▲ |
| | 西郷 | マアジ | 7,998トン | 114% | 118% | 90.9トン | 107% | 181% | ◎ |
| | 浦郷 | マアジ | 3,962トン | 138% | 220% | 58.3トン | 126% | 174% | ◎ |
| イカ釣り (5トン以上) | 浜田 | ケンサキイカ | 188トン | 67% | 51% | 383kg | 91% | 88% | ▲ |
| | 西郷 | ケンサキイカ | 31トン | 56% | 79% | 132kg | 74% | 86% | ○ |
| 沖合 底びき網 | 浜田 | ムシガレイ、ケンサキイカ、キダイ | 330トン | 111% | 101% | 11.4トン | 91% | 97% | ○ |
| 小型 底びき網 | 久手 | ニギス、アンコウ | 170トン | 88% | 73% | 701kg | 93% | 87% | ○ |
| | 和江 | キダイ | 298トン | 92% | 87% | 693kg | 82% | 83% | ▲ |
| 定置網 (大型) | 浜田 | サワラ類 | 22トン | 63% | 59% | 1.8トン | 115% | 158% | ◎ |
| | 美保関 | シイラ、サワラ類 | 120トン | 200% | 164% | 1.3トン | 185% | 153% | ◎ |
| | 浦郷 | マアジ、ウルメイワシ、カンパチ | 19トン | 44% | 113% | 721 kg | 38% | 106% | ○ |
| 釣り・縄 | 仁摩 | ケンサキイカ、ヒラマサ、メダイ | 11トン | 67% | 50% | 32kg | 86% | 72% | ▲ |
| | 大社 | マアジ、ケンサキイカ、ヒラマサ、ブリ | 5トン | 58% | 45% | 16kg | 69% | 67% | ▲ |
| | 西郷 | ケンサキイカ、ソデイカ、カサゴ・メバル類、マダイ | 18トン | 69% | 90% | 38kg | 67% | 88% | ▲ |

平年比：過去5年（沖底のみ10年）の平均値との比較 漁模様（CPUE）：◎が平年以上、○が平年並み、▲が平年以下

本年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは全てを－、前年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは前年比を－、平年の漁獲量が0Kg(ほぼ0Kg)のものは平年比を－とした

【ケンサキイカ情報】

発行日：平成25年10月25日

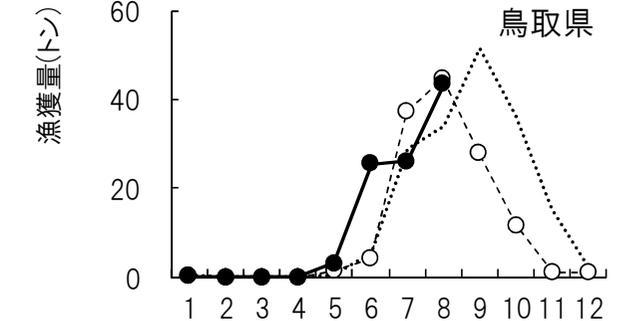
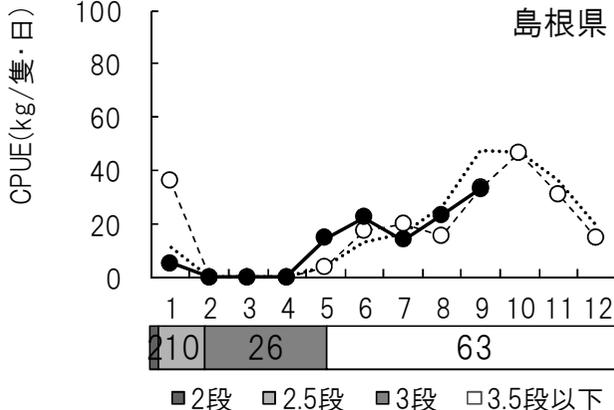
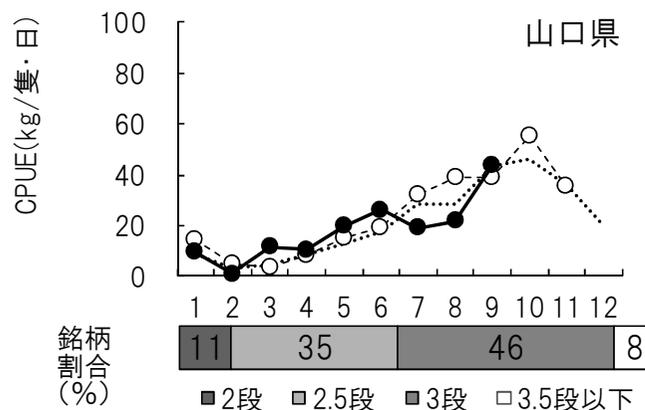
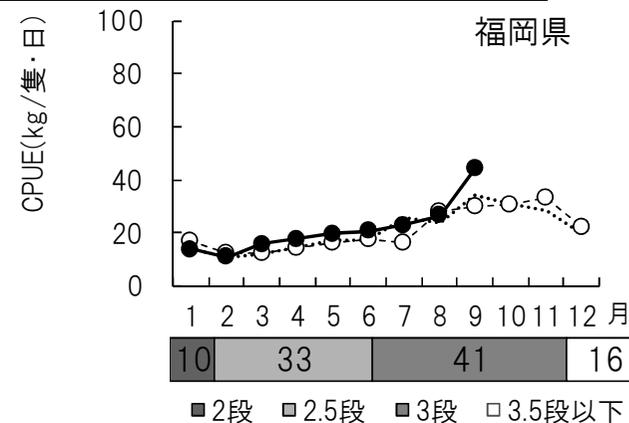
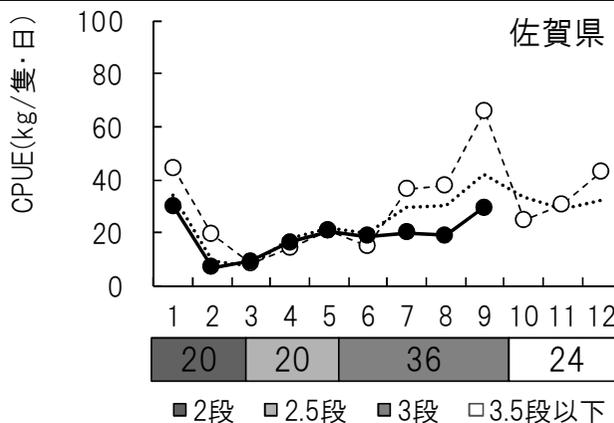
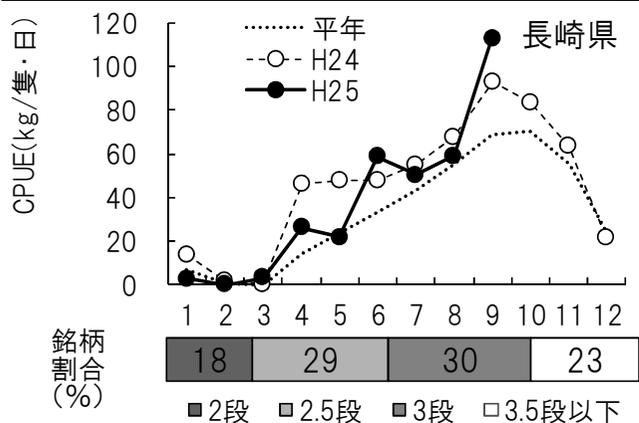
長崎県、佐賀県、福岡県、山口県、島根県、鳥取県の6県で共同発行しているケンサキイカ(地方名：マイカ、シロイカ)の情報(各地の漁況と底層水温)です。

I：9月のイカ釣り漁況

これらの情報は各県の主要漁港データを利用しています。折れ線グラフは漁獲量もしくはCPUE、棒グラフは銘柄割合を示しています。

佐賀県を除く長崎県～山口県では平年並み～平年を上回り、島根県は平年を下回る漁況でした。各県の状況は以下のとおりです。

| | | | | | |
|-----|---|-----|--|-----|---|
| 長崎県 | 標本漁協の漁獲量は、前年を下回り、平年並みでした(前年比68%、平年比104%)。 | 佐賀県 | 標本漁港の漁獲量は、前年・平年を下回りました(前年比39%、平年比58%)。 | 福岡県 | 代表港の漁獲量は前年比130%、平年比106%で、前年を上回り、平年並でした。 |
| 山口県 | 代表港の漁獲量は前年並みで、平年を大きく下回りました(前年比102%、平年比58%)。 | 島根県 | 主要7港の水揚量は225トンで、前年・平年を下回りました(前年比61%、平年比48%)。 | 鳥取県 | データ集計中 |



※平年は過去5年(H20～H24)の平均値

Ⅱ：10月上旬の底層水温

| | | | | | |
|-----|---|-----|--|-----|--|
| 長崎県 | 未観測 | 佐賀県 | 底層水温は、壱岐水道は23.6～26.1℃、対馬東水道が15.6～21.0℃でした。 | 福岡県 | 沿岸域の水温は21～25℃台と甚だ高め～やや低め、沖合域の水温は底層で16～21℃台と平年並み～やや高めとなっています。 |
| 山口県 | 底層水温は沖合の冷水域を除き、16～22℃を示し、平年並み～かなり高めでした。 | 島根県 | 陸棚上の底層水温は、温泉津沖は概ね「かなり高め～はなはだ高め」、高山沖は概ね高めの水温帯が拡がり、特に100m以浅は「はなはだ高め」でした。 | 鳥取県 | 水深100m前後の海域の底層水温は15～17℃でした。 |

底層の水温分布図
 大きい数字：水温
 小さい数字：水深

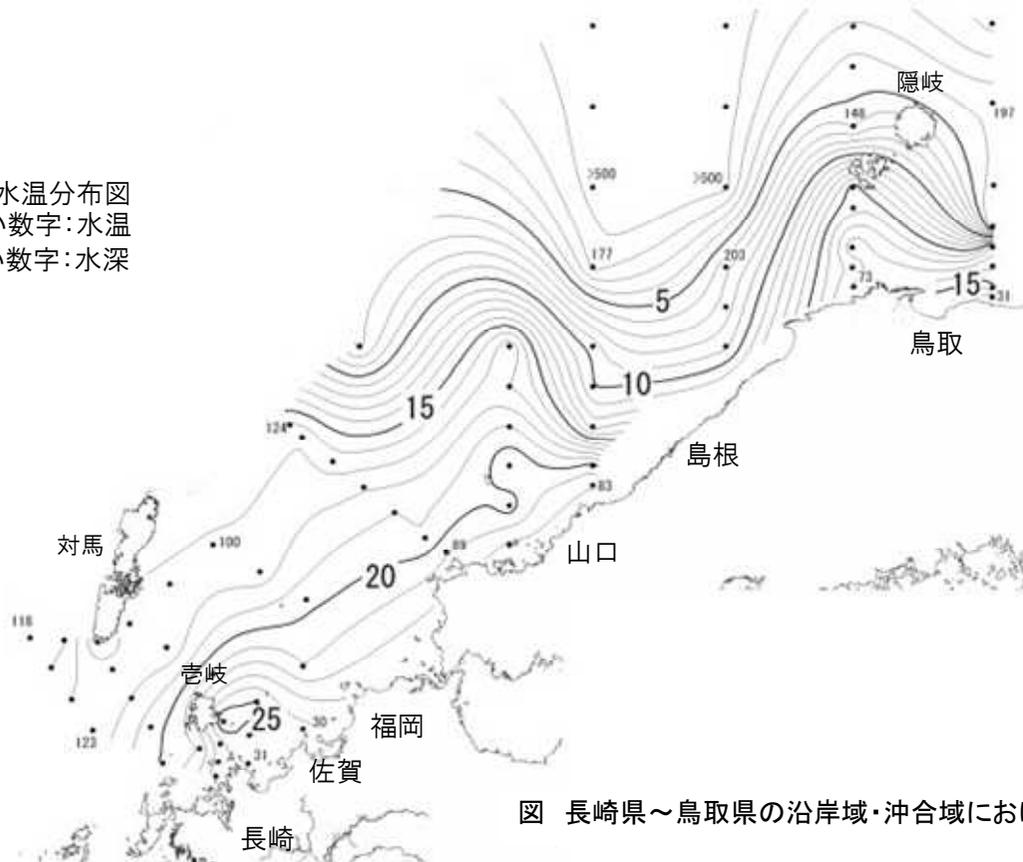


図 長崎県～鳥取県の沿岸域・沖合域における底層の水温分布図